

食育の推進に関する施策の進捗状況

(平成28年度実績及び課題等)

平成29年8月22日

1 富山の「食」に着目した「富山型食生活」の確立

(1) 富山型食生活の普及など県民運動の展開

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
①富山型食生活モデルメニューの確立・普及	インターネット等によるメニューの普及PR	イベント等によるメニューの普及PR	イベント等によるメニューの普及PR

【取組実績】

- ・旬の地場産食材や伝統的な食文化を活かした栄養バランスの良い「富山型食生活」や希薄になりつつある郷土料理等の食文化の伝承を図るため、食育リーダー等による普及のほか、「越中とやま食の王国フェスタ 2016～秋の陣～」で、多くの県民への普及を図った。

〇イベントによる富山型食生活の普及・啓発



(「越中食の王国フェスタ2016～秋の陣～」)

【課題及び対応】

- ・引き続き、家族参加の料理教室の開催、食育リーダーによる講習会の開催のほか、四季折々の地場産食材を使った栄養バランスのよい「富山型食生活」の普及・PR活動を展開する。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
②とやま食育推進フォーラムの開催	1回	1回	1回

【取組実績】

- ・地域などにおける食育の実践活動を一層強化するため、「食育推進フォーラム」を開催し、約80名が参加した。

日時：平成28年7月10日（日） 13:30～15:30

場所：富山県民会館304号室

講演：「地産地消は家庭から～野菜づくりで農に親しみを～」

農政ジャーナリスト、フリーアナウンサー 小谷 あゆみ 氏



〇主催者あいさつ



〇講演（小谷 あゆみ氏）

【課題及び対応】

- ・食育の推進・実践に関する普及啓発を図るため、食育推進フォーラムを引き続き開催する。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
③県食育推進計画の普及・啓発	マスメディアを活用した幅広い周知 〔県政番組等〕	マスメディアを活用した幅広い周知 〔県政番組等〕	マスメディアを活用した幅広い周知 〔県政番組等〕

【取組実績】

- ・県政番組の「こんにちは富山県です」など、マスメディアを活用した普及・啓発を実施し、幅広い県民運動の展開を図った。
- ・県内各地域の食育関係団体の「健康メニュー」や「地産地消メニュー」、「とやまの家庭料理」など、地域で実践されているメニューについて、ホームページに掲載したほか、各種研修会やイベント等で普及啓発を図った。



○県政番組で県内各地の食育実践を紹介

【課題及び対応】

- ・引き続き、各種団体等が開催する会議・研修会、イベント等に参加して食育の普及・啓発に努めるとともに、県政番組「こんにちは富山県です」での情報提供などマスメディアを活用した幅広い県民運動の展開を目指す。

(2) 地産地消の推進

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
①「越中とやま食の王国フェスタ」の開催	2回	2回	2回

【取組実績】

- ・『食のとやまブランド』をそだてる、つながる、ひろげる」をテーマに、平成 28 年 10 月 29 日（土）・30 日（日）に「越中とやま食の王国フェスタ 2016～秋の陣～」を、平成 29 年 2 月 4 日（土）に「越中とやま食の王国フェスタ 2017～冬の陣～」を開催した。
- ・「秋の陣」では、富山テクノホール（富山市）を会場に、富山の海・野・山の幸を一堂に集め、旬の県内野菜を販売する「とれたて！マルシェ」、「とやま食の匠」による創作料理等の実演、「農家カフェメニュー」の販売、富山の食文化や郷土料理を体験する「食の体験ステーション」、県産の旬の食材を使った和洋中の豪華弁当「10周年記念柴田理恵監修弁当」などの販売、食等に関するクイズショーなど多彩な催しを繰り広げ、訪れた約 27,000 人に対し、富山の食の魅力をアピールした。
- ・「冬の陣」では、ホテルアクア黒部（黒部市）において、「越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した 231 名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能していただいた。

○「越中とやま食の王国フェスタ」



（秋の陣 富山テクノホール）



（冬の陣 「越中料理と地酒を楽しむ会」の料理）

【課題及び対応】

- ・引き続き、「越中とやま食の王国フェスタ」の「秋の陣」及び「冬の陣」を開催し、「食のとやまブランド」の県内外への発信を図る。

「秋の陣」：収穫の恵みに感謝しつつ、生産活動等の成果や食の魅力を県内外に発信

「冬の陣」：「越中料理」等の魅力を県内外に発信

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
②学校給食における地場産品の活用促進 (市町村推進組織の運営、地場産野菜・果実を使用した特別給食の実施、地場産食材の活用促進等に対する支援)	活用実績 562 トン (108 品目) 特別給食※ 274 校	活用実績 510 トン (115 品目) 特別給食※ 270 校	活用計画 700 トン以上 (H33目標 (115 品目)) 特別給食※ 270 校

※特別給食とは、学校給食での県産食材の活用を促進するため、従来の市町村産中心の県産食材の活用に加え、産地間(市町村間)の情報を共有化しネットワークを構築するとともに、旬の県産食材を使用した県産給食を実施し、学校給食での県産食材のさらなる活用拡大を目指した取組み。

【取組実績】

- ・「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の充実・強化や生産者等と児童、生徒との交流活動を進め、地場産食材の活用促進や地元の食材に対する知識、理解を深めた。
- ・また、米の多様な利用について理解を深めてもらうため、学校給食に対する米粉パンの供給に支援した。県下の全小・中学校では、県産コシヒカリによる米飯給食を週平均3.7回実施した。

【課題及び対応】

- ・「地場産野菜、果実等を活用した特別給食」の実施などに引き続き取り組む。

○「学校給食向け県産食材活用拡大プロジェクト事業」を活用した協議会運営・特別給食・生産者との交流活動



	H27 実績	H28 実績	H29 計画
③子どもたちに対する魚食の普及			
・ 高校、短大生向けのセミナー開催	5 回	5 回	5 回
・ 小学生向け副読本「ふるさと富山湾」配布	10,000 部	10,000 部	10,000 部
・ 県産魚学校給食普及事業 学校給食食材提供	27.5 万食	32.1 万食	35 万食

【取組実績】

- ・県内の高校生・短大生(富山短大、伏木高校、新湊高校、富山商業高校 計5回 159名)を対象に魚食の大切さを教える「さかなの栄養に関する知識の習得」及び「おさかなの捌き方の実習」のセミナーを開催した。
- ・富山湾で獲れる魚や水産業の仕組み及び漁場環境を保つための取組みについて理解を深めてもらうことを目的に「ふるさと富山湾～ふしぎの海のおさかな読本～」を10,000部作成し、社会科の副読本として活用してもらうため、県内小学校の5年生及び担当教諭に配布した。
- ・富山湾の美味しい魚を知ってもらい、富山湾産魚の消費拡大を図るため、富山県学校給食会等と連携し、県下小学校、中学校等にフクラギの切身等を給食食材として提供した。

【課題及び対応】

- ・県産魚を知り県産魚に親んでもらうため、引き続きセミナーの開催や副読本の配布、学校給食への食材提供に取り組む。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
④直売所及びインショップにおける農産物 販売額	販売額 3,475 百万円	販売額 3,611 百万円	さらなる販売額の 増加を図る (H33 目標を今後決定)

【取組実績】

- ・消費者が生産者・産地の「顔が見える」県産品に触れることができる機会をより多く確保するため、直売所やインショップでの農産物販売への支援を行った。
- ・これらの結果、県内の直売所及びインショップの店舗数及び販売金額は、近年、着実に増加している。

	平成 14 年度		平成 21 年度		平成 28 年度
店舗数	75 店舗	→	165 店舗	→	195 店舗
販売金額	387 百万円	→	1,939 百万円	→	3,611 百万円



【課題及び対応】

- ・現在、直売所及びインショップにおいて販売されている品目、量、時期は限られており、消費者ニーズに必ずしも十分応えきれていないことから、地場農産物の生産拡大支援など、生産者、流通関係者、小売業者等が一体となった取り組みを支援する。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
⑤女性起業組織等への活動支援	女性起業件数 174件 (37件)	女性起業件数 181件 (38件)	女性起業件数 184件

※括弧内は販売額 1,000 万円以上起業件数

【取組実績】

- ・地場産品等の生産や加工に意欲的に取り組む農村女性起業組織のリーダーや起業化を志す農村女性を対象に、経営に必要なマーケティングや経営管理、加工技術などのスキルアップ講座を開催した。
- ・また、新たな商品開発やサービス、販路開拓などの取り組みを支援する農村女性チャレンジ事業や、起業活動の拡大に必要な機器や加工施設の整備等を支援する農村女性起業拡大支援事業、起業から企業への発展を目指す組織に対しては、商品構成の拡大、販売力の強化等を総合的に支援する農村女性先進モデル企業育成事業を実施した。
- ・講座や事業を活用して開発された商品等は、農産物直売所等で販売されているほか、農村女性自らが経営する農家カフェで提供されるなど、農村女性の起業活動は、着実に拡大している。

○「越中とやま食の王国フェスタ 2016～秋の陣～」
女性起業のカフェ・食堂や、開発商品をPR



(展示コーナー)



(新商品等の来場者アンケート)

- ・「越中とやま食の王国フェスタ 2016～秋の陣～」では、農村女性が開発した新商品をパネル紹介するとともに、来場者へ商品に対する意見を聞き、今後の商品づくりにとって貴重な意見を得ることができた。
- ・各農林振興センターにおいては、このような女性起業組織の商品開発や直売所・インショップの品揃えの充実、学校給食への食材供給等の地産地消活動などを重点的に支援した。

【課題及び対応】

- ・地域農業を活性化するため、女性のパワーを活かした直売や農産加工等の意欲的な起業活動の拡大がますます重要になってきている。
- ・このため、引き続き、女性起業組織等の育成を図るため、実践的な商品開発能力を養う「農村女性スキルアップ講座」の開催に加え商品開発などの事業規模拡大や製造量の拡大など企業への発展をめざした取組みを起業活動の発展段階に応じて、総合的に支援する必要がある。
- ・また、農村女性起業の商品等に関する技術や販売方法の課題解決に向けたフォローアップとして、開発商品の評価報告会の開催や商品PR等相互連携により起業者同士のネットワークを促進する。

	H27実績	H28実績	H29計画
⑥富山県ふるさと認証食品（Eマーク食品）の認証	申請に基づき審査 ・年2回 ・新規認証14	申請に基づき審査 ・年2回 ・新規認証19	申請に基づき審査 ・年2回募集

【取組実績】

- ・年2回、新規募集を行い審査及び認証している。
- ・各種イベントやホームページ等でのPR。

＜Eマーク商品の認証要件＞



- ・主要原材料は富山県産100%であること
- ・製造工場等が富山県内にあること
- ・食品としての品質が優れていること

○H29.3月現在の認証数
35品目 313商品

【課題及び対応】

- ・地産地消の推進や6次産業化などの新たな取組みにより、商品開発が活性化する中で新規に募集を図りたい。

		H27実績	H28実績	H29計画
⑦地産地消県民運動の推進				
ア)「とやまの旬」応援団の募集・登録	個人	2,901名	3,238名	5,000名(H33目標)
	企業・団体	1,209団体	1,220団体	1,500団体(H33目標)
イ) 県産品購入ポイント制度		44日間	44日間	8～11月(予定)

【取組実績】

- ・積極的に地産地消に取り組む企業や団体、個人を応援団として登録し、県民ぐるみの地産地消運動を広げていく。
- ・県民に県産品を優先的に選択してもらう動機付けとなるよう「県産品購入ポイント制度」を実施したところ、17,148件の応募があった。

実施概要：平成 28 年 10 月 8 日～ 11 月 20 日

食品スーパーマーケット・百貨店、青果店、加工食品製造直売所（339 店舗）
青果・鮮魚・精肉・加工食品に貼り付けてある「地産地消シール」
「プライ斯拉ベル」を 10 枚集めて応募



○県産品に貼られる
地産地消シール



○サービスカウンターや売場での
応募用紙・応募箱の設置



【課題及び対応】

- ・引き続き、地産地消「とやまの旬」応援団の登録を促進するとともに、応援団が提案する自主的な地産地消活動に対して支援する。
- ・「県産品購入ポイント制度」については、県産品へのシール貼付やポップの充実、食料品スーパーや青果店に加え農産物直売所など対象店舗の拡充に努め、消費者へのさらなる浸透に努める。

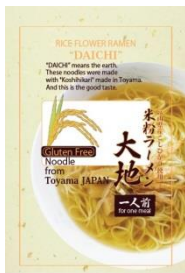
(3) 魅力ある食文化の継承・創造

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
①新たな「とやま名物」商品開発	農商工連携事業 10 件	農商工連携事業 15 件	—
	6 次産業化とやまの 魅力発信事業 10 件	6 次産業化とやまの 魅力発信事業 新規 10 件 継続 2 件	6 次産業化とやまの 魅力発信事業 新規 6 件 継続 2 件
	「富のおもちかえり」 商品開発 4 商品	「富のおもちかえり」 PR 活動の実施	「富のおもちかえり」 商品開発 5 商 品程度

【取組実績】

- ・農林漁業者と中小企業者が連携して行う新商品・新サービスの開発や販路開拓を支援し、平成 28 年度は、地元産の農産物を使用した特産品など 15 件の商品開発・販路開拓の取組みが行われた。
- ・農林漁業者が自ら行う新商品・新サービスの開発や販路開拓(6 次産業化)を行う県単独の支援制度により、10 件の新規取組を支援した。

○H28 年開発商品



米粉ラーメン



スイートポテト GELATO



乾しいたけ



玄米

- ・富山を訪れた方が思わず手にとり、持ち帰りたくなるような県産農林水産品を使った魅力あるお土産品「富のおもちかえり」16 商品について、県内外での知名度の向上を目指し PR 販売キャンペーンを実施した。

○富のおもちかえり商品



「富のおもちかえり」商品

押し寿司、ます寿司、オイル漬
ピクルス、かまぼこ、ドレッシング
ローストビーフ、スイーツ

【課題及び対応】

- ・魅力ある商品開発を着実に推進するため、とやま 6 次産業化セミナーや 6 次産業化プランナーの派遣などにより、マーケティング手法の習得や開発後の商品のテスト販売等の課題解決を支援する。
- ・「富のおもちかえり」商品については、県内外での PR 活動を展開するとともに、日持ちしやすい常温商品のラインナップを拡充する。

	H27実績	H28実績	H29計画
②「とやまの食」を普及する人材「とやま食の匠」の認定	推薦に基づき選考 4個人・団体	推薦に基づき選考 6個人・団体	推薦に基づき選考 5個人・団体程度

【取組実績】

- ・食のとやまブランドを支える人材を育成するとともに、とやまの食の魅力を県内外に発信するため、「とやま食の匠」(特産の匠・伝承の匠・創作の匠の3部門)として新たに6個人・団体を認定した。

○H29年3月現在の認定数

特産の匠：	70個人・団体
伝承の匠：	53個人・団体
創作の匠：	36個人・団体
計	159個人・団体

- ・学校、企業、団体等からの依頼に応じて、「とやま食の匠」を講師として派遣した（H28年度の派遣実績 計40回）。

【課題及び対応】

- ・「とやま食の匠」の認定を進めるとともに、学校や企業、地域住民等への「とやま食の匠」の派遣を促進するなど、制度の充実を図る。
- ・「越中とやま食の王国ホームページ」等を活用し、制度の普及啓発を図る。

	H27実績	H28実績	H29計画
③「とやま食の街道」の魅力充実	ツアー商品化活動（パンフレット配布）	「食の語り部」 新規認定 2名	県政バス教室の実施

※「とやま食の街道」・・・富山ならではの食材や食文化の魅力を深く体験できるスポットを巡る周遊ルートを3つの街道として設定

※「食の語り部」・・・各街道の施設において、歴史文化・生産・料理等に関する説話を語っていただける方を認定。

【取組実績】

- ・「食の語り部」を新規に2名認定した。
- ・「とやま食の街道」のパネルを県内イベントで展示した。

○「とやま食の街道」の関係施設と食の語り部

街道名	関係施設数	食の語り部
日本の味・とやま昆布街道	26施設	25名
神秘の海・富山湾きときと街道	36施設	37名
心のもてなし・とやま里山料理街道	48施設	45名
計	110施設	107名



【課題及び対応】

- ・引き続き、「食の語り部」の人材や組織の充実を図る。
- ・個人客をターゲットとした「食の街道」施設への誘客を一層図る。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
④越中料理のブランド化の推進	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR	「越中料理」のPR

【取組実績】

- ・平成 29 年 2 月 4 日にホテルアクア黒部（黒部市）において、「越中とやま食の王国フェスタ 2017 ～冬の陣～ 越中料理と地酒を楽しむ会」を開催し、参加した 231 名に、県産食材を使った越中料理と県内の酒蔵による地酒を堪能してもらった。

【課題及び対応】

- ・「越中とやま食の王国フェスタ」や「越中とやま食の王国」ホームページ等で、越中料理の普及・PRを図る。

2 家族そろった楽しい食事で健全な食生活の実現

(1) 家族そろった健全な食生活の実現

	H27実績	H28実績	H29計画
①家庭教育かわら版の刊行	各号に掲載 7万部配布	各号に掲載 5万部配布	各号に掲載 5万部配布

【取組実績】

- ・家庭教育かわら版は年2回、幼稚園、保育所、小学校1・2年の子どもの保護者に配布(約5万部)している。

○平成28年「夏号」—家族の絆を深めよう—



【課題及び対応】

- ・食育の実践に向け、家庭教育かわら版を活用した食に関する関心の喚起と正しい知識の普及を引き続き実施する。

	H27実績	H28実績	H29計画
②とやま食材ふれあい講座の開催	218回 (9,089人)	342回 (19,353人)	12市町村にて 開催

※H28の事業名：未来につなぐ「農」と「食」普及啓発事業

【取組実績】

- ・地場産食材を用いた料理教室や農林水産物の加工体験などを、子どもと地域住民が一緒に行う「とやま食材ふれあい講座」の開催を支援した。(市町村に対し、開催経費の1/2を助成)
- ・平成28年度は、12市町において計342回の講座が開催され、地域の園児・小中学生、保護者、地域住民の合計19,353人が参加した。
- ・講座の具体的内容としては、地場産食材を用いた料理教室や地域の伝統食の調理のほか、農作業体験及び農産物加工体験の組み合わせや、年間を通じた様々な地域食材に関する体験講座など、地域の特色を活かした取組みも見られた。

○とやま食材ふれあい講座での農作業体験(南砺市の事例)



【課題及び対応】

- ・引き続き、地域における食育を推進するため、子どもと地域住民が一緒に農作業や料理等を体験する講座を実施する。

		H27 実績	H28 実績	H29 計画
③三世代ふれあいクッキング セミナーの開催	開催回数	101 回	70 回	70 回
	参加人数	3,746 人	2,187 人	2,500 人
	〔 内訳 子供 保護者 祖父母〕	1,784 人	995 人	1,000 人
		837 人	576 人	500 人
1,125 人		616 人	1,000 人	

【取組実績】

- ・食を通じたふれあいの輪を地域に広げ三世代の交流を推進する場を提供するとともに、日頃の食生活を振り返るきっかけとなる「三世代ふれあいクッキングセミナー」を開催したところ、2,187 人の参加があり、各世代を通じて参加者の好評を得た。

○三世代ふれあいクッキングセミナー（富山県食生活改善推進連絡協議会）



【課題及び対応】

- ・三世代のふれあいを通じて食べものを大切にする心などを伝えるとともに、各世代が健康づくりのための食事について学び、幼い頃から望ましい生活習慣を身につけられるよう、セミナーの一層の推進を図る。

		H27 実績	H28 実績	H29 計画
④富山型食生活普及事業(いきいきとやま食育クッキング)				
ア) 市町村中央研修会	開催回数(15 市町村)	26 回	15 回	15 回
	参加人数(推進員)	762 人	498 人	450 人以上
イ) 地域伝達普及講習会	開催回数	26 回	30 回	30 回
	参加人数	921 人	1,315 人	900 人以上

【取組実績】

- ・市町村の推進員を対象に中央研修会を実施し、この中で郷土料理等の調理実習を行うなど地域で普及活動を行うときのポイントを確認した。
- ・富山型食生活を確立・普及するため、地域の一般住民を対象に、郷土料理や旬の地場産食材を用い、地域の食文化を生かした栄養バランスのよい料理を普及する富山型食生活普及事業「いきいきとやま食育クッキング」を実施した。(富山県食生活改善推進連絡協議会へ委託)

		H27 実績	H28 実績	H29 計画
⑤若者世代に対する食育講座の開催	開催回数	20 回	6 回	10 回以上
	参加人数	633 人	124 人	1回25人程度

【取組実績】

- ・朝食の欠食、外食やインスタント食品への依存、女性のダイエット志向など、特に若者世代（30歳代まで）の食生活に課題が多いことから、高校、短大、大学、事業所等に講師を派遣し、「食生活」に関する正しい知識を普及・啓発するための講習会を開催した。

○若者世代に対する食育講座



農業未来カレッジ研修生と富山短期大学生が協力して調理



完成した料理



県内農業高校生の調理体験

【課題及び対応】

- ・より幅広い若者世代に対して食育を普及・啓発するため、中・高校生、大学生をはじめ若い会社員等を対象に富山版食事バランスガイドや栄養成分表示を活用した講習会を開催するとともに、学園祭などイベントに出向き指導相談等を行う。
- ・若者が取り組む食育調理体験やセミナーなどの食育活動に支援を行う。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
⑥食生活改善チェックシートの作成・活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用 (中高年男性向け)	食育リーダー等による普及、イベントでの活用	食育リーダー等による普及、イベントでの活用

【取組実績】

- ・食事バランスガイドを活用した食事内容の点検や食生活のポイントを確認できる食生活改善チェックシートを作成し、食育リーダー等による普及、「越中とやま食の王国フェスタ2016～秋の陣～」等における活用等により食育の実践の普及に努めた。
- ・平成28年度は新たに、ジュニア向けの食生活改善チェックシートを作成した。



【課題及び対応】

- ・対象者に応じたチェックシートを活用し、地域の講座やイベント等で普及啓発に努める。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
⑦外食産業等と連携した普及・啓発 (地域の外食産業や食品スーパー等と連携した富山型食生活の普及・啓発事業)	訪問店舗数 102 店舗	訪問店舗数 117 店舗	新しく「健康 寿命日本一応援店」を募集

【取組実績】

- ・県民の健康づくりを支援する「健康づくり協力店」として登録された 361 店舗のうち、飲食店とスーパー等 117 店舗の巡回訪問を行い、富山型食生活モデルメニューの配付、食事バランスガイド等の普及・啓発を行った。(富山県栄養士会へ委託、厚生センター連携事業)

○飲食店のメニューやお惣菜の栄養表示の例



←寿司屋での表示例

【1パックの栄養価】

エネルギー	631kcal
たんぱく質	26.1g
脂質	6.4g
炭水化物	112.0g
食塩相当量	2.7g

新鮮な魚介類で良質なタンパク質を!!
野菜たっぷりの味増汁と一緒に食べる
ことで栄養バランスもアップ!!

作成：富山県中部厚生センター
富山県栄養士会

※原料の量等は必ずご確認ください。

特天うどん 特選

栄養価

エネルギー	300kcal
たんぱく質	14.0g
脂質	2.9g
炭水化物	51.9g
食塩相当量	3.9g

天然の塩えび粉のゆめがく、昆布の旨みをカラッと帯びています。

野菜たっぷり126g お好み焼き(ミックス)

鶏肉、イモ、ホタテ、豚、キャベツが入っています。
この一品で1日の野菜摂取目標量(350g)の1/3が食べられます。

栄養価

エネルギー	600kcal
たんぱく質	25.1g
脂質	22.4g
炭水化物	24.1g
食塩相当量	2.2g

田舎そば 十割そばの7、乃庵

※そばの実の甘皮を一緒に挽いた粉を使用していて思っど風味の強い麺

☆栄養価☆

エネルギー	726kcal
たんぱく質	26.7g
脂質	6.2g
炭水化物	136.8g
食物繊維	9.5g
食塩相当量	3.2g

※1食(1人前)あたり
日本人の食事摂取基準(2015年版)では、食物繊維の目標量は、成人(18歳以上)で男性17g以上、女性15g以上とされています。

和風ラーメン 肉焼高野豆腐

☆栄養価☆

エネルギー	300kcal
たんぱく質	14.0g
脂質	2.9g
炭水化物	51.9g
食塩相当量	3.9g

※原料の量等は必ずご確認ください。

【課題及び対応】

- ・生活習慣病を予防するためには、外食も含めた食生活管理が重要であることから、既存の「健康づくり協力店」制度を見直し、「健康寿命日本一応援店」として、さらなる食の健康づくりの推進を図る。

(2) 保育所・幼稚園・学校等における食育の推進

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
①毎日しっかり朝ごはん事業の推進 (県内全小・中・高校生及びその保護者を対象)	朝食摂取への意識の高揚と実践化の普及啓発を図った。	朝食摂取への意識の高揚と実践化の普及啓発を図った。	事業内容を工夫し継続実施する。

【取組実績】

- 平成 28 年度は、朝食の役割や朝食摂取の習慣を身に付けることの大切さを啓発するため、「毎日しっかり朝ごはん！」のキャッチフレーズと、栄養バランスのよい朝食内容やご飯を食べている「きときと君」(元気とやまスコット)のイラストを印刷した食育ランチマットを作成して、県内の小・特別支援学校の全小学 1 年生に配布し、食に関する指導の推進に努めた。年度末には、「学校給食とやまの日」や「全国学校給食週間」等を意識できるように、食育啓発カレンダー (H29. 4～H30. 3) を県内全小・中・高・特別支援学校に配布した。また、食育の日などを通じ、学校・家庭・地域が連携を図り、取組を推進した。

○食育ランチマットを用いた食育啓発運動(小学校)

○「カレンダーの上部(カルシウム摂取の重要性)」食育啓発教材



【課題及び対応】

- 栄養バランスのとれた朝食を摂取する児童生徒の増を工夫し、継続実施する。

②栄養教諭を中核とした「望ましい食習慣づくり」の推進	栄養教諭配置数 30人	栄養教諭配置数 32人	栄養教諭配置数 32人
----------------------------	----------------	----------------	----------------

【取組実績】

- 平成 28 年度は、栄養教諭が配置されている富山県内各地区において、教科や特別活動における食に関する指導の充実、地域・家庭との連携調整等、地産地消の啓発や食育の推進を行った。
- 栄養教諭の配置校では、各校の児童生徒の実態や発達の段階に合わせて、計画的・継続的な食に関する指導が実施している。栄養教諭による保護者向けの講演や授業参観での親子学習、食育だよりの発行、親子料理教室の開催等により、食育の推進について P T A や地域への啓発を図った。
- 地場産のよりよい食材を使った調理の体験活動を多くの学校で行うことができた。その中で、食材を選ぶことの大切さや感謝の気持ちをもって食べる心を育むことができた。

○栄養教諭による授業風景



○地域の生産者を招いた会食

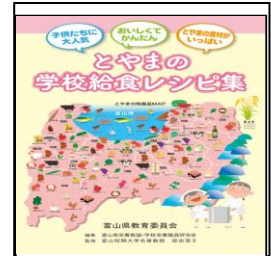


○「とやまの学校給食レシピ集」を活用した親子料理教室の開催

- ・家庭での望ましい食習慣の確立を目指して平成 27 年度に作成し全児童生徒に配布した「とやまの学校給食レシピ集」を基に、栄養教諭が親子料理教室を実施した。このレシピ集は、学校給食の献立の中から、不足しがちな栄養を補って児童生徒に人気のある献立や地場産物を取り入れた献立を掲載しており、ホームページからのダウンロードも可能である。
- ・家庭での実践化に向けての意欲を高め、毎日の食事作りの参考にもらえるように、野菜の摂取量を増やす工夫として、「ミルクおから」や「小松菜とひじきのナムル」等の副菜を紹介して、レパートリーが増えるように指導を展開している。



○親子料理教室の実施



○学校給食レシピ集

○「学校給食とやまの日」の取組（砺波市学校給食センター）

- ・「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施している。
- ・県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が協力を図り、地域の食材を多く取り入れた、特色ある献立の工夫が見られる。
- ・砺波市の「学校給食とやまの日」には、砺波市産コシヒカリのごはん、小豆やだいこん、さといも、にんじん等を使用した「いとこ煮」や「はりはりあえ」等が提供された。市内の小学校では、地元の生産者の方を招いて会食が行われ、砺波市学校給食センターの栄養教諭が、給食に取り入れた地場産物について説明した。



○砺波市の献立



○栄養教諭による指導

○小学生向けの「農」と「食」を紹介する副読本の活用

- ・次の世代を担う子供たちが自然の恩恵や食に係わる人々の活動、さらに、ふるさとの農産物のよさを理解するとともに、日本人の伝統的な食文化を理解・継承していけるように、富山県の農業と食(食文化、郷土料理等)を紹介する小学生向けの副読本を活用して、授業を実施している。
- ・栄養教諭の配置校では、4年生1学期の総合的な学習の時間に、学級担任と栄養教諭のチームティーチングの授業を実施した。富山の地場産物や旬の食材を摂取するよさについて学んだ子供たちからは、「地場産物や旬の食材を食べるよさがよく分かった」「家族にも伝えたい」等の声が聞かれた。



「農」について	「食」について
農業や農村の役割	食への感謝
富山県農業の姿	バランスのよい食生活
米づくり	朝食で元気な体づくり
野菜づくり	富山県でとれる食べ物 (地産地消)
チューリップ球根づくり	富山県の郷土料理と食文化
果物づくり	
畜産	



○副読本を活用した授業

【課題及び対応】

- ・平成 29 年度は、栄養教諭 32 名が県内全市町村に配置されており、家庭や地域と連携しながら、なお一層の食育推進に努める。
- ・また、平成 29 年度は、「とやまの学校給食レシピ集」を用いた親子料理教室等の開催を支援するなど、家庭での望ましい食生活の実践化を推進する。
- ・平成 27 年度に作成した、本県の農業の特徴と食文化・郷土料理などを紹介する小学 4 学年向けの副読本「みんなで学ぼう！とやまの『農』と『食』」を活用し、食に関する指導の充実を図る。
- ・栄養教諭の配置校では、農林水産業や伝統料理など地域の食文化に対する児童・生徒の理解を深めるため、地域の食文化の特徴を活かした「食材の生産段階から望ましい食生活の実践」までの一貫した学習を地域の農林水産業者や食育関係者などと連携して推進する。

3 家庭を中心とした食育を地域社会でもしっかりと支援

(1) 地域で支えあう食育の推進

		H27 実績	H28 実績	H29 計画
①食育リーダーの養成・派遣	登録者数	43 人	53 人・団体	53 人・団体
	派遣回数	52 回	69 回	50 回

【取組実績】

- ・食育の推進を図るため、管理栄養士、医師、調理師、食生活改善推進員、農業生産者など「食」に関する知識を持つ方々を「富山県食育リーダー」として養成・登録し、関係機関、団体等が主催する講演、研修会等に派遣した。(富山県栄養士会へ委託)

○食育リーダーによる食に関する研修会



【課題及び対応】

- ・様々な分野で活躍する食育リーダーのさらなる養成登録を推進するとともに、食育リーダーの活用の周知を図り、効果的な派遣を行う。

		H27 実績	H28 実績	H29 計画
②富山型食生活普及に向けた食育推進イベントの開催	開催回数	2 回	2 回	2 回

【取組実績】

- ・とやまグランドプラザで野菜摂取の促進と生活習慣病予防を目的として子どもから高齢者までを対象に食育推進イベントを開催し、食事診断・栄養指導、健全な食生活の啓発等を行った。
- ・県民一人ひとりが食育に関心を持ち、食育の実践が広がることを目的に越中食の王国フェスタ 2016 秋の陣イベントでの栄養バランスのとれた富山型食生活等の普及・啓発や栄養改善指導を行った。



野菜を食べようキャンペーンのようす

【課題及び対応】

- ・富山型食生活の実践には、家庭や職場、地域など様々な場所において、取組みを一体的に推進する必要がある。

	H27実績	H28実績	H29計画
③とやま子育て応援団制度の推進	2,258 店舗	2,264 店舗	2,300 店舗

【取組実績】

- ・子育て家庭のふれあいやコミュニケーションを深める機会を提供する「とやま子育て応援団」制度を推進し、「家族そろっての食事」の普及・啓発を図った。
 (実施時期：主に、毎月の「とやまふれあいウィーク」(「とやま県民家庭の日」(毎月第3日曜日)から始まる1週間)の期間中)

【課題及び対応】

- ・とやま子育て応援団制度のさらなる利用促進を図るため、これまで利用の少なかった祖父母や未就園児の保護者に向けたPRを行う。

	H27実績	H28実績	H29計画
④地域食育推進体制強化事業の推進			
ア) 食育推進連絡会の開催	6回	5回	5回程度
イ) 食育指導関連教材の整備・貸与回数	150回 (教材数 229)	131回 (教材数 214)	100回程度
ウ) 食育に関する出前イベントの開催	実施回数	5回	5回
	参加人数	507人	約406人
			10回 500人程度

【取組実績】

- ・各厚生センターが中心となり、食にかかわる関係機関、団体等と連携し食育に関する共通理解を深めるなど、地域における食育推進体制の強化充実を図った。

具体的な事業内容

- ア) 食育推進連絡会の開催
- イ) 食育指導関連教材(フードモデル、紙芝居、パネル等)の整備と貸与
- ウ) 学校、保育所、公民館等での食育に関する出前イベントの開催

○食育推進連絡会の開催 ○出前イベント



専門学校での出前イベント

【課題及び対応】

- ・食育推進連絡会を中心に地域での連携をさらに推進するとともに、スーパーマーケット、飲食店、事業所等と連携した出前イベントの開催や、食育指導関連教材の紹介により、食育推進体制を強化する。

	H27実績	H28実績	H29計画
⑤バランスアップ健康プロジェクトの実施	民間産業との連携	民間産業との連携	民間産業との連携

【取組実績】

- ・民間産業と連携したバランスアップ健康プロジェクト事業を実施し、社員食堂等と連携したメニュー改善の取組み等を行った。
- ・県民の課題（野菜不足・食塩過剰）に対応した食の健康情報を県ホームページに掲載するなど、幅広い情報提供に努めた。

○ヘルスアップお惣菜プロジェクト

県内スーパーと連携し、惣菜の減塩化や低カロリー化、野菜摂取の促進などを図り、健康に配慮した食材の提供を実施するとともに、食生活改善に向けた啓発を行った。

- ・参加店舗を募集し、減塩・低カロリー等の条件を満たす惣菜を「ぷらすデリ」として認証
- ・スーパー等での食生活改善（減塩・野菜摂取）キャンペーンを展開



認定商品（旬食のコンサルタントブーケ）

【課題及び対応】

- ・民間事業所と連携し、メニュー改善に向けた取組みをさらに推進、拡大する。
- ・健康寿命延伸のため、地域や職域と連携した健康づくりの強化、県民一人ひとりに届く「健康づくり」の展開と気運の醸成、若い世代からの発症予防・重症化予防が重要であり、県民を取り巻く家庭や職場、地域、学校などが一体となって、総ぐるみで取り組む。

(2) 食品の安全確保


	H27 実績	H28 実績	H29 計画
① 食品安全フォーラム等の開催	2 回	2 回	2 回

【取組実績】

- ・食品安全情報をわかりやすく解説するとともに、県民との意見交換を行う食品安全フォーラム等を開催した。

「食品安全フォーラム in とやま 知っていますか？事業者の取組み」
 (平成 28 年 7 月 22 日開催、富山県民共生センター サンフォルテ、参加者約 150 名)

- ・講演 1 「加熱時に生じるアクリルアミドとそのリスクについて」
 (講師：内閣府食品安全委員会
 リスクコミュニケーション官 箴島 一浩氏)
- ・講演 2 「HACCP の普及推進について」
 (講師：東海北陸厚生局 食品衛生課長
 中屋 剛氏)



- ・東日本大震災被災地に対する消費者の理解や応援する心が復興の大きな鍵となることから、県民が被災地生産者等の声に直に触れ、被災地産品の安全性を実感する震災復興応援イベント「食の安全・安心交流フェア～今、富山からできること～」を開催した。

震災復興応援イベント「食の安全・安心交流フェア～今、富山からできること～」
 (平成 29 年 3 月 4 日開催、フューチャーシティー ファボーレ、参加者約 2,500 名)

- ・食の安全・安心セミナー
 (講師：「ふくしまの今を語る人」長谷川 純一氏 (会津伝統野菜生産者))
- ・お笑い芸人「母心」トークショー「食べて応援! Made in ふくしま」
- ・福島・富山県産品の試食・販売コーナー
- ・福島と富山 食のコラボレーション (両県産食材を使用した料理紹介、餅の振舞い)
- ・その他 (チームキビタンスステージショー「福島の元気をPR!」、クイズラリー等)



【課題及び対応】

- ・食品安全フォーラム及び意見交換会等を開催し、リスクコミュニケーションの強化を図る。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
②とやま食の安全・安心情報ホームページの運営 (アクセス年間件数)	17,799 件	21,731 件	—

【取組実績】

- ・県内の食中毒発生や食品安全フォーラムの開催内容など、適時的確な情報提供に努めるとともに、より見やすく分かりやすいホームページとするため、関係情報の整理等を行った。

【課題及び対応】

- ・適時的確な情報提供、内容の更新に努め、欲しい情報がよりスムーズに得られるよう工夫するとともに、ホームページの認知度向上に努める。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
③食品表示講習会の開催	4 回	4 回	4 回

【取組実績】

- ・関係団体へのパンフレット等の配布やホームページでの情報提供を行うとともに、業界団体等を対象とした食品表示講習会（4 回）の開催や、食品表示ウォッチャー講習会（4 回）等への講師派遣により、適正な食品表示の周知に努めた。



食品表示講習会の様子

【課題及び対応】

- ・食品表示に関し関係団体に対し情報提供を行うとともに、講習会や研修会を通じて制度の周知に努める。

	H27 実績	H28 実績	H29 計画
④食品表示ウォッチャー調査店舗数	1,110 店舗	1,134 店舗	1,320 店舗
⑤食品表示ウォッチャーにより適正でない食品表示等が報告された店舗の割合	3.2%	2.2%	0%

【取組実績】

- ・県内小売店における食品表示の実態を把握するため、消費者からなる「食品表示ウォッチャー」（30 名を委嘱）を配置し、ウォッチャーに対する研修会を 4 回実施するとともに、日常の買い物の中で小売店の食品表示の実態を調査した。
- ・また、不適正な表示が認められた店舗については、担当職員が立入調査を行い、適正な表示を指導した。

【課題及び対応】

- ・食品表示ウォッチャーによる調査を通じた監視体制の強化に努める。



食品表示ウォッチャー